

北海道議会議員
Go forward 北海道 たけだ 浩光 道政通信 ひろみつ

所属会派：民主・道民連合

住みやすい『西区』、そして『北海道』をめざします！

発行：たけだ浩光政務事務所 〒063-0811 札幌市西区琴似1条7丁目1-35 ☎011-624-8030 FAX 011-624-8031

道議会 紛糾 知事 原発再稼働容認表明で…

第4回定例道議会は、11/26（木）に開会し、冒頭提案補正予算額として、ヒグマ対策推進費、災害復旧事業費や特別対策事業費（道の単独事業前倒し）等247億1,910万円が提出され、12/12（金）の最終日には追加補正予算額として物価高対策、特別高圧電力の利用者支援や春グマ対策推進費として29億2,015万円が提案され、同日可決されました。これにより、本年度一般会計予算総額は、3兆1,021億6,029万円となり、閉会となりました。

しかし、今定例会で最大の課題（問題）は、知事が、泊3号機が新規規制基準に適合したと認められてから僅か4カ月で再稼働容認姿勢を表明し、しかも、本会議ではなく予算委員会（知事総括）で地元同意を正式表明したこと及びその過程に大きな疑問と不信感が生じたことであります。

連合審査会（産炭地域振興・GX推進・エネルギー調査特別委員会、総務委員会） 随時調査

議会では、泊原発3号機の再稼働をめぐり、関連する2つの委員会で連合審査会を立上げ、次の日程で参考人を招致して話を聞くこととしました。

11月20日(木)10時開会	11月21日(金)10時開会
* 経産省資源エネルギー庁 * 原子力規制庁 * 内閣府	* 北海道電力株式会社 * 原子力資料情報室 * 泊村長

そこで、委員会として既に再稼働している愛媛県の伊方原発へ、随時調査としておもむき、県や議会の再稼働時の対応等について意見交換をし、それらを踏まえ各委員から参考人への質問となりました。

＜愛媛県知事の対応＞ 注）伊方原発と泊原発は「加圧水型軽水炉」という同じタイプの原発であるため、選択した

* 四国電力に対し、一番真摯な説明は「一軒一軒のフェイス・トゥ・フェイス訪問（対面訪問）」とし、20km圏内に拡大して対応させるなど、独自の追加安全対策として、国を上回る電源対策など8項目を要請した。

* また、国に対しても、道路整備促進、避難訓練協力や使用済燃料の中間貯蔵・最終処分への取組など、8項目の要請を行った。特に、**原発事故時には「政府が責任を持って対処する」と内閣総理大臣に明言させている。**

今回の連合審査会での審議は、関係者を招致して、様々な問題点や考え方を確認することが目的であり、審査会が再稼働の同意を決定するところではないということです。あくまでも、**再稼働への同意は知事自身の責任で判断すべきもの**であります。**議会自体が、知事が同意するための根拠となってはならない**ということです。伊方原発への随時調査から見たことは、愛媛県知事の住民に対する丁寧なプロセスと国への強い要望でした。当時の鈴木知事からは、全く見えていなかったものです。

＜連合審査会での武田の質問＞・・・原子力資料情報室へ

1. 泊原発稼働時の電力安定供給について
2. 原発攻撃のリスクについて
3. 原発の経済性について
4. エネルギーシフトの可能性について



このQRコードから詳しい会議録を見ることができます



21日 連合審査会で質問する武田道議

本会議での2回にわたる議事進行

そもそも、定例会前日の25日に、特定会派の会合で副知事が「知事が再稼働容認方向」と伝えたことが報道され、議会前の容認と道民に誤認される報道に物議を醸すこととなりました。

28日には、我が会派と共産党、維新の会の3会派合同で知事に対し「北海道電力泊原発3号機の再稼働に係る慎重な判断を求める申入書」を提出するも、会期中にもかかわらず副知事が対応するなど議会軽視と言わざるを得ません。改めて拙速な判断をしないよう求めました。

また、本会議代表質問（民主・道民連合）で、道民の意思確認や安全対策について再質問をしても、当初答弁の繰り返しでありました。さらに「この定例会議論のみで、最終的判断を導き出すのか」の質問に対しては答弁をしませんでした。そこで、**議事進行**をかけましたが同様のため、再々質問をしたが、再度議事進行をかけても同じ答弁でありました。まさに議会軽視であることを指摘しました。

*（議事進行⇒議事進行上の問題について、議長に対し、質疑し、注意し、あるいは希望を述べるための発言のこと。議題に直接関係のあるもの、直ちに処理を必要とするものが対象。武田道議は議会運営委員会副委員長のため、議場内議運にてこの件を担当した。）

泊3号機再稼働について地元同意を正式表明！ 知事！～なぜ総括で？

第4回定例道議会は、12/10（水）予算特別委員会知事総括質疑が行われ、他会派議員の冒頭質問への答弁で、泊原発3号機再稼働について地元同意を正式表明をしました。

それに対し、我が会派の畠山みのり議員から、◎道政の重要課題と位置づけながら、なぜ本会議議論ではなく委員会知事総括質疑の答弁の中で正式表明なのか？ ◎安全対策の不備 ◎道民の意向調査も行わない中、規制委員会の審査合格からわずか4ヶ月での拙速な判断となった点などを繰り返し質したが、かみ合わない答弁の繰り返しでありました。

我が会派としては、国に対し安全対策の整備と早期実施の確約が履行されないなら、同意を撤回すべき付帯意見を提出したが、否決となりました。

知事総括質疑終了後に、立憲民主党道連と民主・道民連合議員会合同で、知事に対し、判断の拙速さ、道民の不安と懸念の払拭や説明責任の履行を強く求め「**抗議声明**」を出しました。（QRコード参照）

さらに、12日の最終日には泊原発3号機の再稼働に対する**決議案**を提出するも否決され、第4回定例道議会は、またしても知事の議会軽視と説得力の無さを露呈しつつも、残念ながら数の力で押し切られる形で閉会となりました。我が会派としても、最終的には、道民の安心・安全の確保が最優先であることから、他の課題も含め知事と引き続き議論・追及をしてまいります。

《決議案》

1. 北海道電力泊発電所3号機再稼働における拙速な同意の撤回と十分な審議時間の保障を求める決議
2. 北海道のエネルギー供給体制の確立と泊発電所3号機再稼働について慎重審議を求める決議

保健福祉委員会 12月11日 質問者一武田

＜医師等の確保について＞

厚労省が2年に1度調査している、医療需要、人口構成、医師の性、年齢構成等の要素を考慮した医師偏在指標というのがあるが、道内では、地理的・気象的な特性を反映する「へき地尺度」を活用し、本道に有利に働くよう今後の対策に取り組んでほしいことを申し入れました。また、医師不足や業務過多の対応として診療看護師の採用が役立つことは一定理解できるが、看護本来の業務もあり一般看護師の定数外配置も視野に入れ検討していただきたい。働き方改革に逆行することなく、北海道の医療を守るため、医者の方員をはじめ医療従事者の確保に取り組んでいただくことを要望しました。

お詫び 第4回定例道議会の報告が、遅くなり申し訳ありませんでした。また、シリーズ企画も延期となりました事をご理解願います。今後ともよろしくお願いいたします。

たけだ浩光プロフィール

【すまい】西区西野（在53年）
1960年 江別市生まれ
その後、すぐ札幌へ
1979年 北海道立札幌西高等学校 卒業
1980年 北海道大学水産学部 中退
1985年 北海道大学医学部附属
診療放射線技師学校 卒業
1985年 札幌医科大学附属病院勤務
2019年 北海道議会議員 初当選
2023年 北海道議会議員 二期目当選

〒063-0811

札幌市西区琴似1条7丁目1-35 さんばちビル2階

TEL:(011)624-8030 FAX:(011)624-8031

e-mail: info@takeda-hiromitsu.com

たけだ浩光オフィシャルWebサ

オフィシャルWebサイトで道政通信のバックナンバーがご覧になれます

たけだ浩光

検索

